

帶 広 市 文 化 賞

帶 広 市 功 勞 者

帶 広 市 教 職 員 功 勞 者

受 賞 者 紹 介

帯広市文化賞

村 瀬 岩 尾

大正2年川上郡上佐幌尋常小学校代用教員を振出しに教育界に入られ、初等教育界に輝かしい足跡を遺され、昭和28年4月市の懇望もだしがたく、帯広市教育長となり、昭和39年9月、任期満了に伴い後進に途をゆずるため、その職を退職され、静かに余生を送られている。

教育界に入られてより50余年、本市はもとより本道の教育只一筋にその生涯を捧げられ、氏の高邁なる人格を思慕するもの限りなく、その教えを受けた多くの子弟はあるいは教育界の第1線にあるいは実業界にと氏の教育に対する信念を継承して活躍しており、そのつくされた功績は極めて大きく、多くの人々に尊敬されているところである。

白 木 志 ゆ う

明治30年岐阜県より来道され、大正4年茶道、華道を高橋門左衛門氏より習得、後に茶道は武田智徳氏、華道は岩田美正氏に師事する一方、大正6年謡曲を宮村保久、波吉宮門、波吉信和、各氏に師事し「能楽堂」への出演も4回に及び現在なお茶道、華道、謡曲を教授し後進の指導にあたられている。大正4年より今日まで50年に及ぼんとするながきにわたり、茶道は白木霞斎と称し利休古流、華道は白木霞雲と称し 東池坊、謡曲は宝生流と数多くの子弟の指導に、変転極りない長年月を一貫して変ることなく、斯道の草分けとして文化振興のためつくされた功績は極めて大きく氏を知る数多くの人々から敬仰されている。

帯広市文化奨励賞 「サイロの会」

昭和34年帯広市内の若い教師達の「帯広、十勝の子どもたちの詩心を育てその作品の発表の場を与えて、すさんだ心をすこしでもやわらげてやりたい」という願いにより発足した「サイロの会」は小田豊四郎氏の無償の善意に支えられ、活動を続けてきた。児童詩誌「サイロ」は毎月定期的に1、200部を発行、現在まで5年間、通算58号を発行、中央、地方の教育関係者から注目され中央の雑誌「月刊教育」「作文教育」「実践国語」「現代教育」「北海道教育評論」その他報道関係にもしばしばとりあげられて高く評価されている。特に50号記念特集号は全国学校図書館協会からも優良図書として選定され全国的な話題となつている。

以上のほか毎年1回、子どもの詩と絵のスケッチ遠足を行い、その展覧会の開催、教師と父母のための児童詩講演会を開くなどその活動は巾広くともすればとだえがちな月刊誌を継続発刊し益々成長発展の意慾にもえて将来に期待がよせられている。